

教員活動評価実施報告書

平成28年度

教育・研究等評価室

(内部用)

平成 28 年度 教員活動評価実施報告書

1. 概要

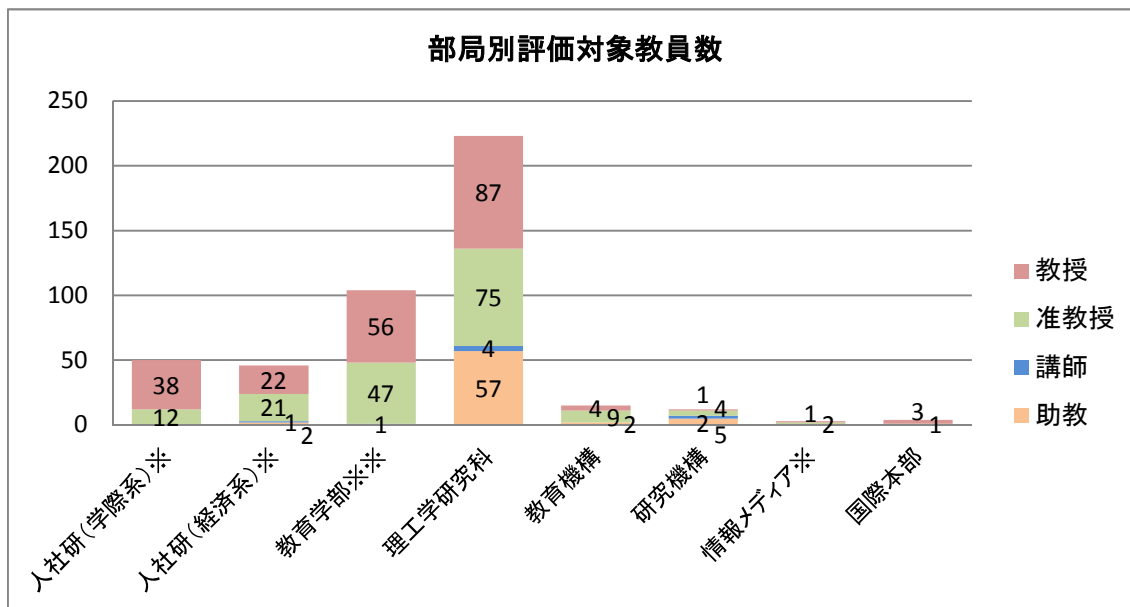
本学では、「教員個人の活動状況を点検することによって、その活動の一層の活性化を図り、本学の教育・研究の質の向上と運営等の改善に資する」という目的の下に、例年、教員個人の教育研究等の活動評価を実施している。平成 27 年度の教員活動についても、下表のとおり評価を実施した。

実施期間	教員活動報告書提出期間：平成 28 年 5 月 26 日（木）～8 月 5 日（金） 部局長評価期間：平成 28 年 9 月 7 日（水）～11 月 18 日（金）
対象者	平成 28 年 4 月 1 日現在で本学に在籍している教員 ※新規採用教員、休職中の教員及び教諭は除く
対象領域	4 領域（教育活動、研究業績、大学運営への貢献、社会への貢献）
評価対象期間	原則過去 3 年間
評価対象者	457 名（提出率 100%）

2. 評価の実施体制、方法

「埼玉大学における教員活動評価の基本方針」、「埼玉大学における教員活動評価の実施要項」、各部局の教員活動評価実施要領に従い、評価対象教員が提出した平成 27 年度実績分の教員活動報告書に基づいて、部局長が所属教員の評価を行った。

3. 評価対象教員数



※ 人社研（学際系）は人文社会科学研究所（旧教養学部）、人社研（経済系）は人文社会科学研究所（旧経済学部）、情報メディアは情報メディア基盤センターの略。

※※ 附属教育実践総合センターは教育学部に含む。

4. 評価の尺度

3. 活動は極めて優れている
2. 活動は期待される水準に達している
1. 活動は不十分で改善を要する

5. 全体の評価結果

埼玉大学は、地域活性化の中核となり、世界/日本の教育研究拠点として光を放つことを目指して、改革を進めてきている。そこで、教育、研究、社会貢献の3領域について、教員活動を概観する。

大学全体でみると、教育領域で3の評価を受けた教員の割合は約31%、2の評価は約68%、1の評価は約1%であった。研究領域では、3の評価は約38%、2の評価は約56%、1の評価は約6%であった。社会貢献領域では、3の評価は約35%、2の評価は約61%、1の評価は約4%であった。3領域のバランスをみると、今回の評価結果では、いずれの領域の評価でも、ほぼ同じような分布となっている。前回の評価と比べると、研究領域では、3の評価を得た教員が少しではあるが増加している。教育領域と社会貢献領域は、ほぼ前回と同様である。このため、研究領域では、前回の評価結果に基づき教員活動の改善がなされたといえる。

教育領域について、本学は、平成27年度、①理工系人材育成の量的・質的強化のため、理工系人材育成戦略を踏まえて平成28年度に向け理工学研究科博士前期課程の定員を50名増員準備をし完了した。学士・修士6年一貫教育のためのカリキュラム改革の一つとして、平成28年度より実施する「理工系基礎教育プログラム」実施のための体制を整備し、②人社系人材育成の質的強化のため、既存の文化科学研究科と経済科学研究科を統合して人文社会科学研究科を設置し、③教員養成の質的強化のため、小学校教員養成へシフトするカリキュラム改革等を行うとともに、平成28年度からの教職大学院設置準備を完了した。各部局が組織としてこれら大学改革の取組を着実に遂行するとともに、各教員がこれらの大学改革を理解して、教育活動の一層の向上に努めることが求められよう。

研究領域では、前回より3の評価を受けた教員が増加した。また、過去3年間の研究活動の業績ごとの経年変化でも、研究活動が全体として向上しつつあることが窺われる。そして、より高い研究水準を目指して平成26年度に設置された戦略的研究部門（ライフ・ナノバイオ領域、グリーン・環境領域、感性認知支援領域）は、URA オフィスと連携し大型外部資金を獲得するなどしている。この部門に重点配置された教員の研究活動がより活性化することはもちろん、他の教員もこれらの教員と競ってより一層の研究活動を行うことが期待される。

社会貢献領域では、日経BP社の「大学ブランド・イメージ調査2016－2017」【首都圏版】でのブランド評価結果において、本学は「地域社会・文化に貢献している」で1位を4年連続で獲得するなど、外部から高い評価を得ている。3の評価を得た教員は前年と同

(内部用)

じ割合を保っており、教員のこの領域における活発な活動が、外部の高評価を維持することにもつながっているとみることができる。この評価を維持しつつさらに地域の活性化に貢献するよう、今後も、多くの教員が積極的に社会貢献に取り組むよう、全学的にも部局としてもさらに工夫することを望みたい。とりわけ、本学は、第3期中期目標期間における機能強化の方向性として文部科学省が示した3つの枠組みのうち、「重点支援①：地域のニーズに応える人材育成・研究を推進」を採用しており、この点からも、教育・研究活動と連動させた、社会貢献領域での教員活動の積極的な展開が求められるといえよう。

各部局の評価は、今年度も全体としておおむね適切に行われていると評価することができる。もっとも、部局横断的に見ると、領域によっては各部局ごとに評価の分布が大きく異なっている。部局によって評価基準が異なるために単純な比較ができないことはもちろんであるが、3の割合の相対的に低い部局に教員活動の一層の活性化のための工夫を求めるとともに、3の割合の相対的に高い部局には、より高い水準を目指しての評価基準の検討を望みたい。また、各部局で把握している課題については、次年度へ向けて、教員活動のさらなる活性化のために改善に積極的に取り組むことを期待する。評価及び改善の取組みを可視化することは、今後一層求められるので、とくに評価の結果明らかになった教員活動の課題とそれに対する改善策について、部局長コメントをより充実させることを求めたい。さらに、本学の教員活動の優れた点を外部に積極的に公表していくことも必要となるので、そのような活動について積極的にコメントで言及することも求めたい。

6. 領域別評価結果

各部局の評価結果を領域ごとにグラフ化した。領域評価を実施しない部局については、領域内の項目をすべてグラフ化した。

本項目の資料は、全学の状況を概観するため各部局の結果を集約したものであるが、評価は、各部局の特性に応じ異なる基準で行われることから、単純な比較はできない。

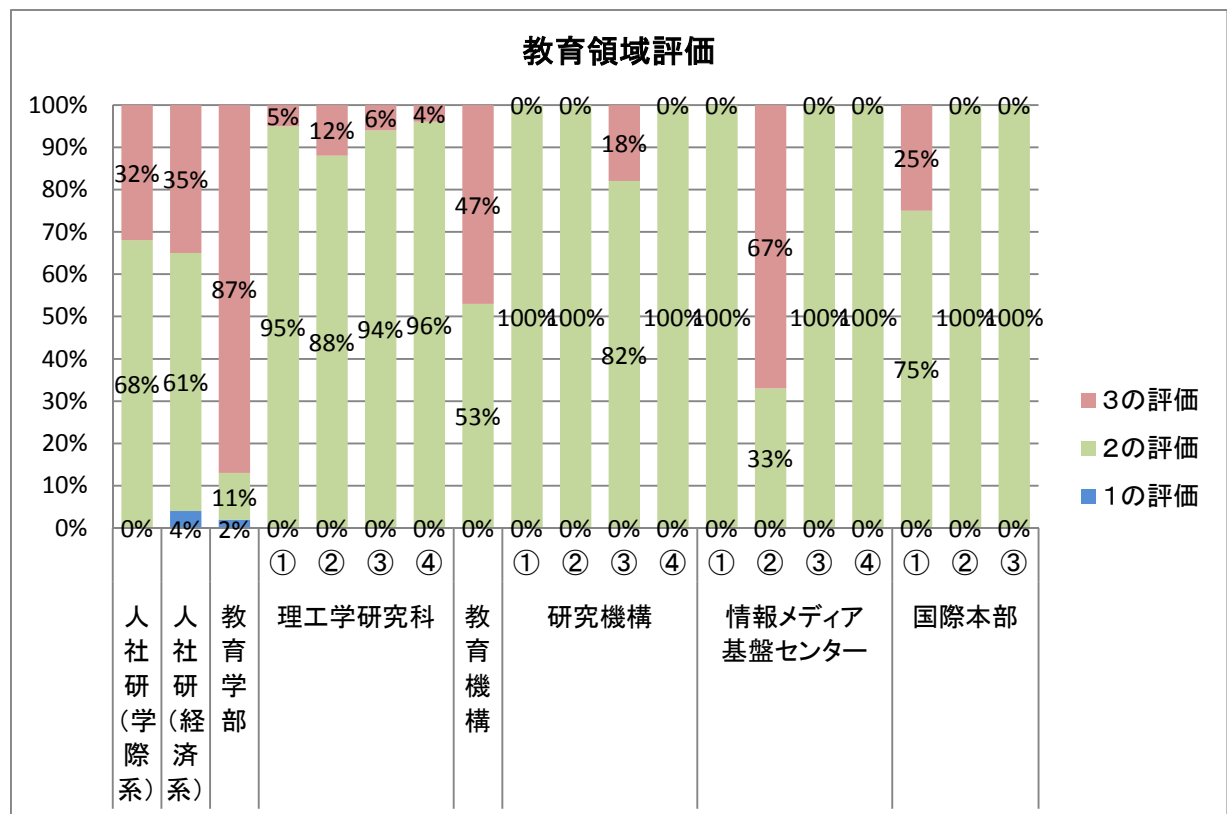
○教育領域

部局名	評価項目	3の評価		2の評価		1の評価	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
人文社会科学研究科 (学際系)		16	32%	34	68%	0	0%
人文社会科学研究科 (経済系)		16	35%	28	61%	2	4%
教育学部		88	85%	14	13%	2	2%
理工学研究科	①講義・演習・実験	12	5%	211	95%	0	0%
	②研究指導	26	12%	197	88%	0	0%
	③教育内容・方法の工夫・改善	14	6%	209	94%	0	0%

(内部用)

	④その他の教育活動	8	4%	215	96%	0	0%
教育機構		7	47%	8	53%	0	0%
研究機構	①講義・演習・実験／ 教育活動への参加・教育の充実	0	0%	12	100%	0	0%
	②研究指導	0	0%	11	100%	0	0%
	③教育内容・方法の工夫・改善	2	18%	9	82%	0	0%
	④その他の教育活動	0	0%	12	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①講義・演習・実験	0	0%	3	100%	0	0%
	②研究指導	2	67%	1	33%	0	0%
	③教育内容・方法の工夫・改善	0	0%	3	100%	0	0%
	④その他の教育活動	0	0%	3	100%	0	0%
国際本部	①プログラムの企画・実施・改善	1	25%	3	75%	0	0%
	②教育内容・方法の工夫・改善／ 大学内外との調整	0	0%	4	100%	0	0%
	③留学生相談等／ 学生への日常的な指導等	0	0%	4	100%	0	0%

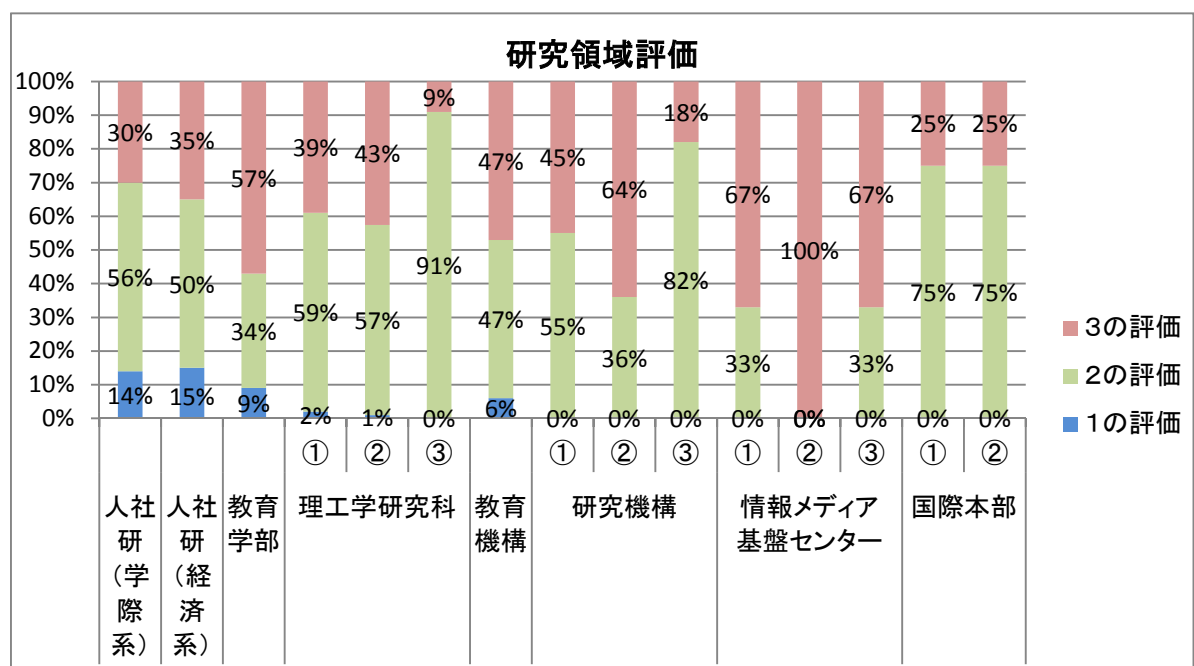
※研究機構では各センター等で評価項目が異なるため、各評価項目の合計人数が一定ではない。



(内部用)

○研究領域

部局名	評価項目	3 の評価		2 の評価		1 の評価	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
人文社会科学研究科 (学際系)		15	30%	28	56%	7	14%
人文社会科学研究科 (経済系)		16	35%	23	50%	7	15%
教育学部		59	57%	36	34%	9	9%
理工学研究科	①研究・開発成果	88	39%	131	59%	4	2%
	②研究・開発活動	95	43%	126	57%	2	1%
	③その他の研究・開発活動	19	9%	204	91%	0	0%
教育機構		7	47%	7	47%	1	6%
研究機構	①研究・開発成果	5	45%	6	55%	0	0%
	②研究・開発活動	7	64%	4	36%	0	0%
	③その他の研究・開発活動	2	18%	9	82%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①研究・開発成果	2	67%	1	33%	0	0%
	②研究・開発活動	3	100%	0	0%	0	0%
	③その他の研究・開発活動	2	67%	1	33%	0	0%
国際本部	①研究業績	1	25%	3	75%	0	0%
	②大学内外との調整	1	25%	3	75%	0	0%

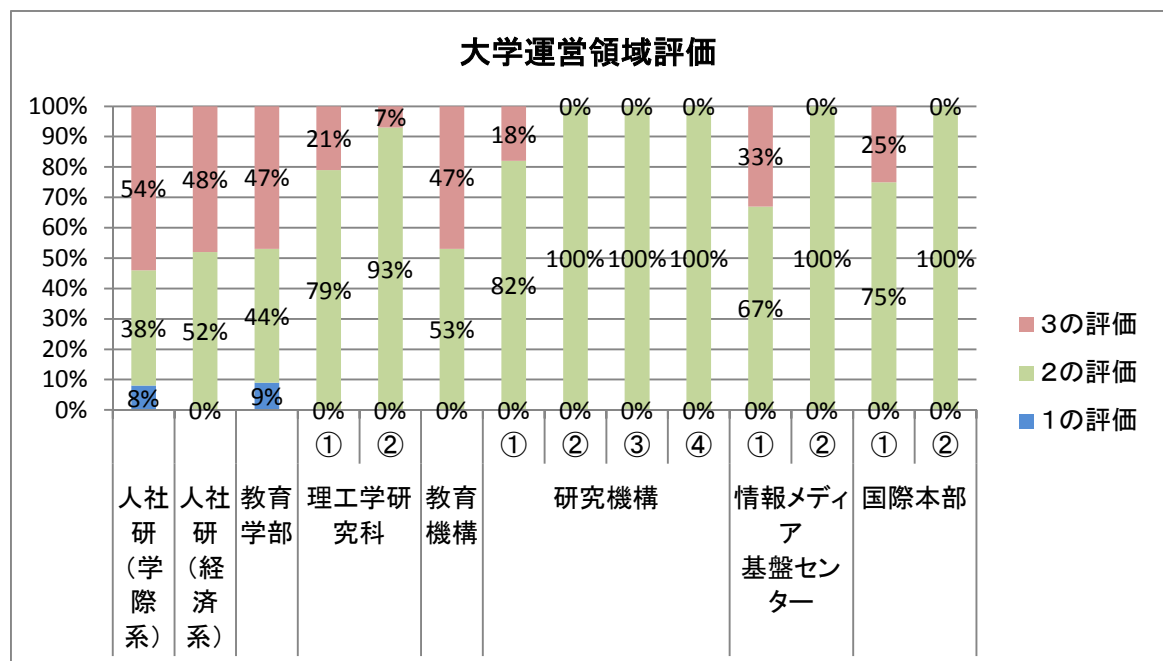


(内部用)

○大学運営領域

部局名	評価項目	3 の評価		2 の評価		1 の評価	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
人文社会科学研究科 (学際系)		27	54%	19	38%	4	8%
人文社会科学研究科 (経済系)		22	48%	24	52%	0	0%
教育学部		49	47%	46	44%	9	9%
理工学研究科	①委員会活動	47	21%	176	79%	0	0%
	②その他の大学運営	16	7%	207	93%	0	0%
教育機構		7	47%	8	53%	0	0%
研究機構	①委員会活動	2	18%	9	82%	0	0%
	②セミナー・講演会	0	0%	5	100%	0	0%
	③施設・設備等の維持管理	0	0%	5	100%	0	0%
	④その他の大学運営	0	0%	11	100%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①委員会活動	1	33%	2	67%	0	0%
	②その他の大学運営	0	0%	3	100%	0	0%
国際本部	①国際化への貢献	1	25%	3	75%	0	0%
	②外部資金獲得等への貢献	0	0%	4	100%	0	0%

※研究機構では各センター等で評価項目が異なるため、各評価項目の人数の合計は一定ではない。

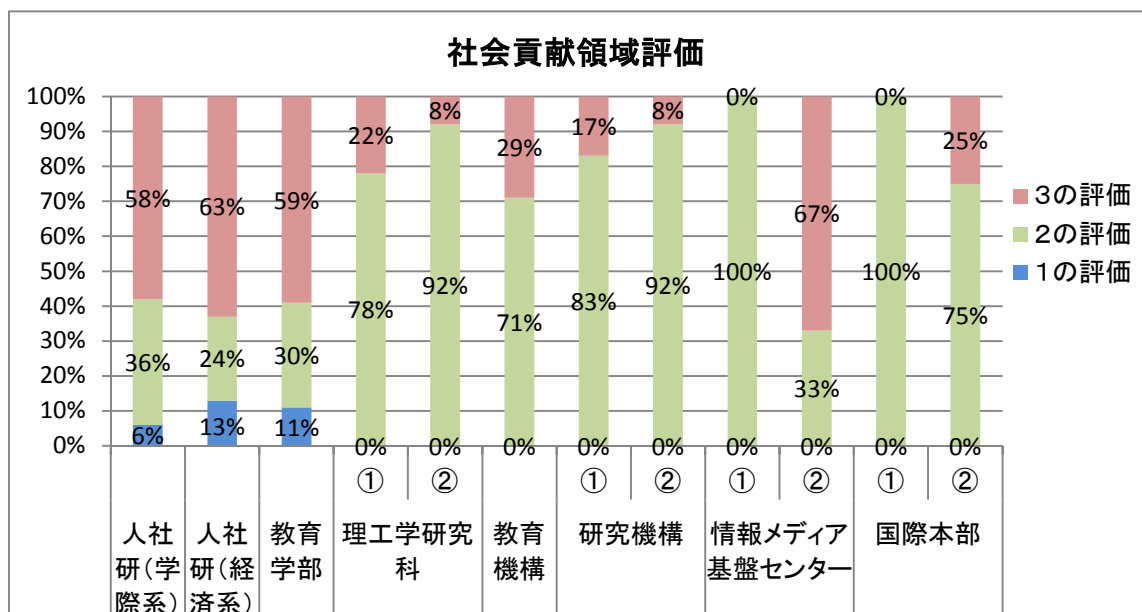


(内部用)

○社会貢献領域

部局名	評価項目	3 の評価		2 の評価		1 の評価	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
人文社会科学研究科 (学際系)		29	58%	18	36%	3	6%
人文社会科学研究科 (経済系)		29	63%	11	24%	6	13%
教育学部		61	59%	31	30%	12	11%
理工学研究科	①学会活動等	50	22%	173	78%	0	0%
	②その他の社会貢献	17	8%	206	92%	0	0%
教育機構		2	29%	5	71%	0	0%
研究機構	①学会活動等	2	17%	10	83%	0	0%
	②その他の社会貢献	1	8%	11	92%	0	0%
情報メディア 基盤センター	①学会活動等	0	0%	3	100%	0	0%
	②その他の社会貢献	2	67%	1	33%	0	0%
国際本部	①地方自治体・他大学等 連携協力	0	0%	4	100%	0	0%
	②その他 ／JICA 等との連携協力	1	25%	3	75%	0	0%

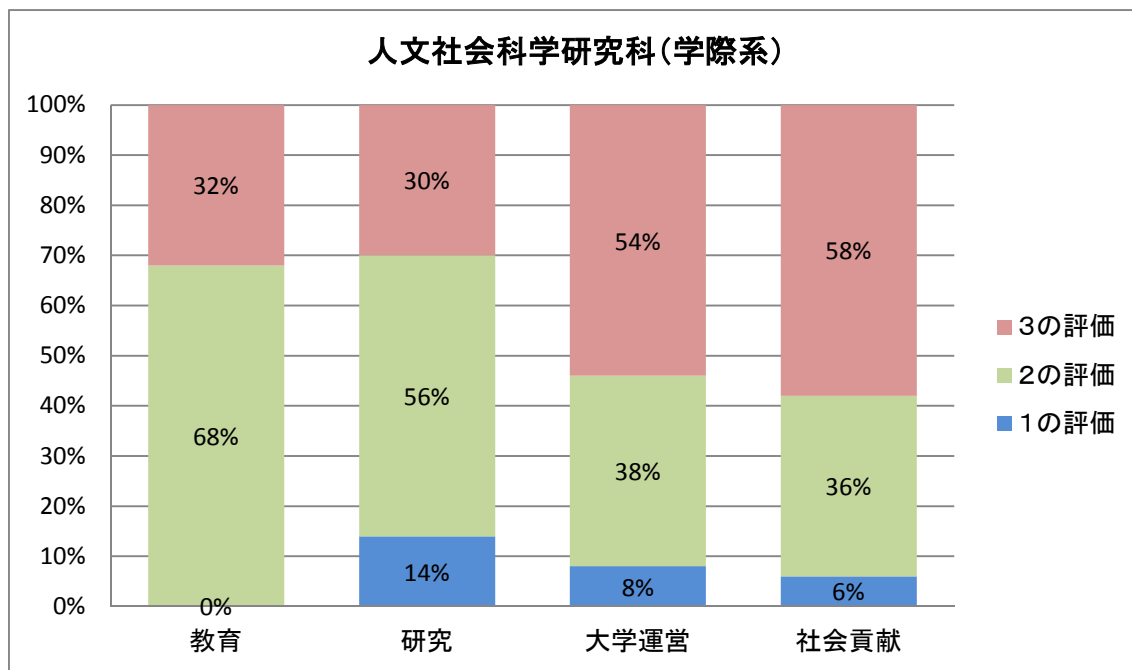
※英語教育開発センターでは、社会貢献活動領域の評価を教育活動領域で実施することをセンターの評価実施要領で定めているため、社会貢献項目については、英語教育開発センター所属教員を除いている。



(内部用)

7. 部局別評価結果

(1) 人文社会科学研究科(学際系) (評価対象人数: 50 名)



	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	16	32%	15	30%	27	54%	29	58%
2の評価	34	68%	28	56%	19	38%	18	36%
1の評価	0	0%	7	14%	4	8%	3	6%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

13名

② 評価の低い教員数

0名

③ 評価結果の総括、問題点等

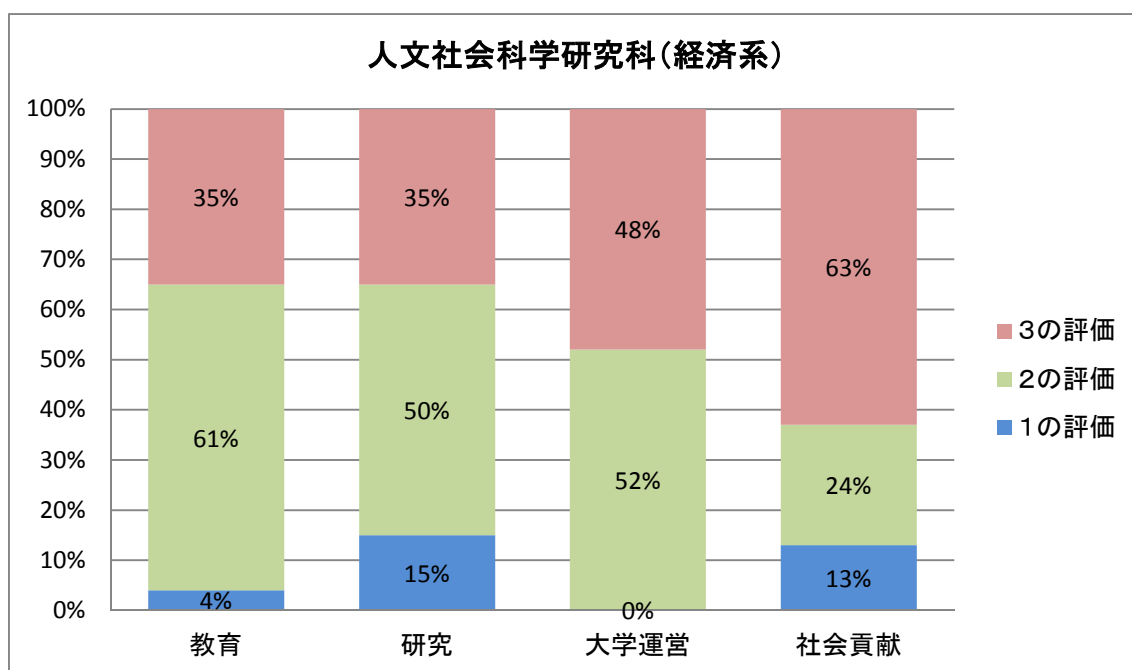
教員の業績活動の自己判定数値をもとに評価を行っているが、教員によって自己判定の基準に少なからぬばらつきがあることが問題である。学部長によるチェックによってばらつきを是正するほか、自己判定基準のマニュアルの厳格化による改善をはかることとしたい。

④ 特記事項

なし

(内部用)

(2) 人文社会科学研究科(経済系) (評価対象人数: 46 名)



	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	16	35%	16	35%	22	48%	29	63%
2の評価	28	61%	23	50%	24	52%	11	24%
1の評価	2	4%	7	15%	0	0%	6	13%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

12ポイントの者が5名、11ポイントの者が10名

② 評価の低い教員数

5ポイントの者が1名、6ポイントの者が2名、7ポイントの者が3名

③ 評価結果の総括、問題点等

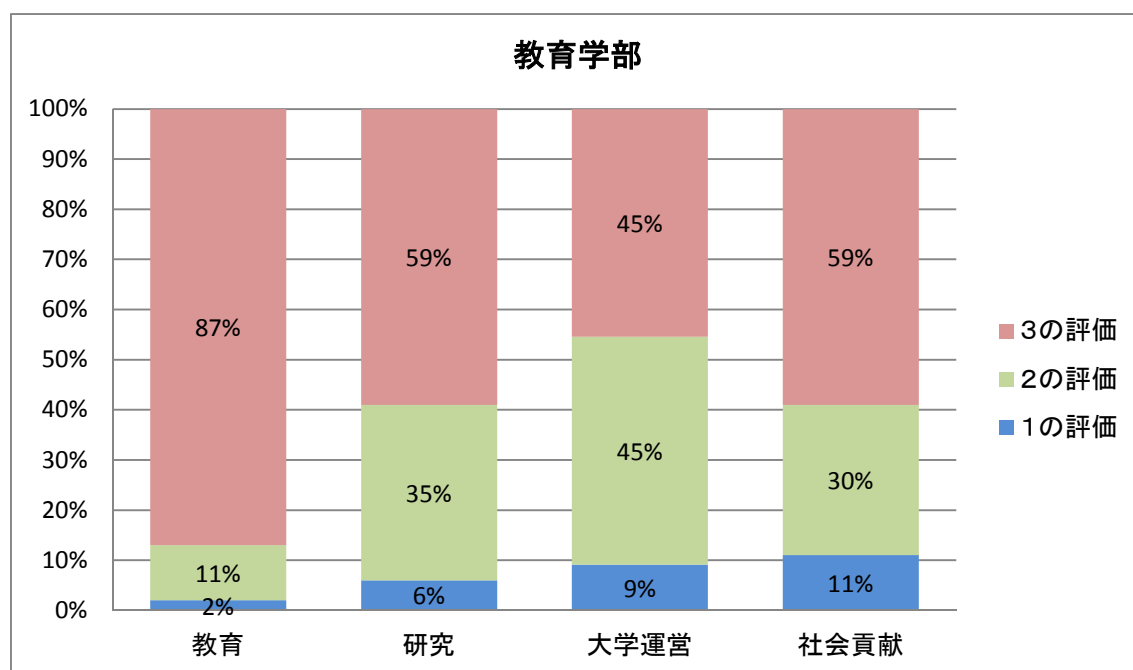
今回の評価より、昨年まで用いられていた経済学部の評価基準ではなく、人社研で統一された評価基準を用いた。教育活動、研究・開発活動の評価の分布が過年度と異なっているのは、評価基準の変更によるところが大きい。

④ 特記事項

なし

(内部用)

(3) 教育学部 (附属教育実践総合センター含む) (評価対象人数: 104 名)



	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	88	85%	59	57%	49	47%	61	59%
2の評価	14	13%	36	34%	46	44%	31	30%
1の評価	2	2%	9	9%	9	9%	12	11%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

すべての領域で「3」と評価された者: 22 名

② 評価の低い教員数

2つ以上の領域で「1」と評価された者: 8 名

すべての領域で「1」と評価された者: 1 名 (休職期間あり)

③ 評価結果の総括、問題点等

教育活動、研究活動はおおむねしっかり取り組まれているが、社会貢献活動には弱さが見られる。講座ごとに見ると、教育活動では学校保健学講座と言語文化講座の教員の評価が高く、研究活動では、学校保健、生活創造、教育学講座の教員の評価が高い。大学運営では、どの講座による差は認められない。社会貢献では身体文化講座と社会講座の評価が高い。

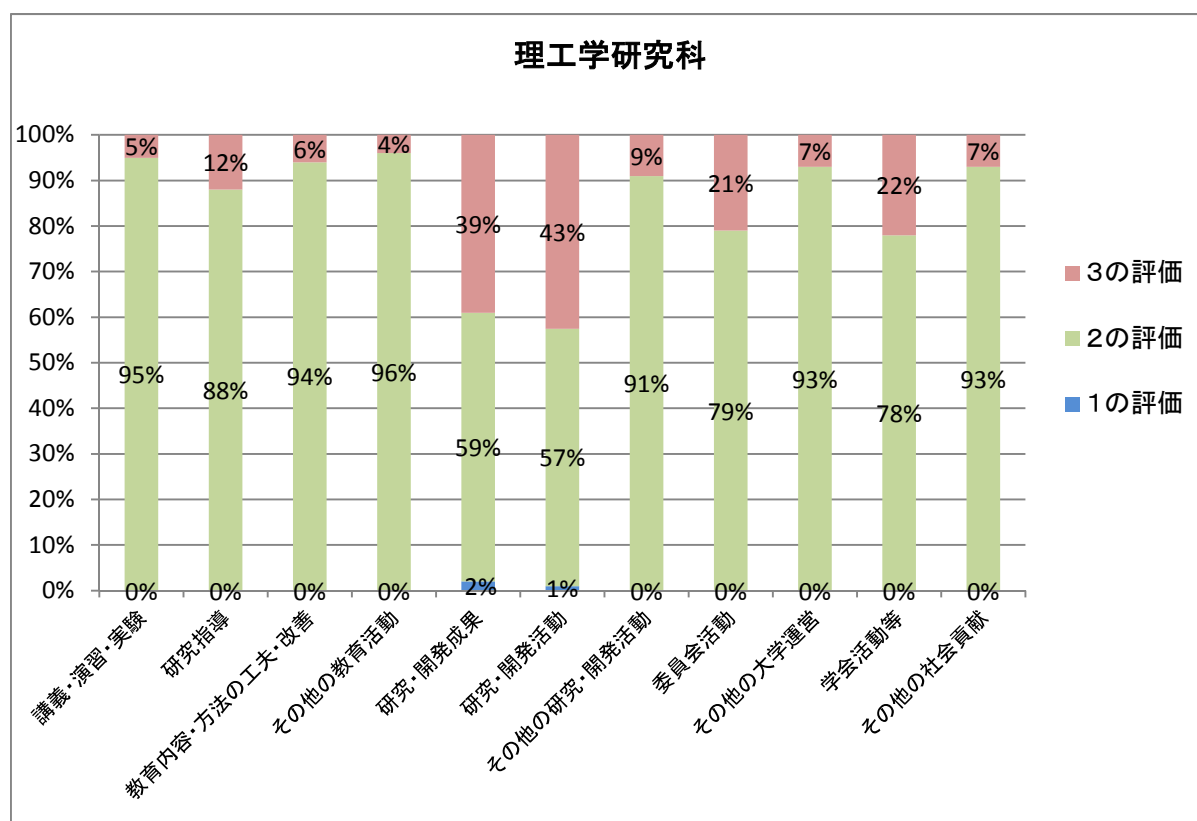
④ 特記事項

(内部用)

身体文化講座の教員が顧問として長年学生を指導しているダンス部は、平成 27 年度大学ダンスフェスティバルでも文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞するなど、全国規模の大きな大会で毎年のように受賞している。この部活動の成果は学生たちに大きな自信を与えるとともに、学部全体の社会的評価を高めていると言える。

(内部用)

(4) 理工学研究科 (評価対象人数: 223 名)



	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	12	5%	26	12%	14	6%	8	4%
2の評価	211	95%	197	88%	209	94%	215	96%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

	研究					
	研究・開発成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	88	39%	95	43%	19	9%
2の評価	131	59%	126	57%	204	91%
1の評価	4	2%	2	1%	0	0%

(内部用)

	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	47	21%	16	7%	50	22%	16	7%
2 の評価	176	79%	207	93%	173	78%	207	93%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

6 点高い教員 3 名、5 点高い教員 5 名、4 点高い教員 13 名、3 点高い教員 36 名、
2 点高い教員 68 名、1 点高い教員 50 名。

② 評価の低い教員数

0 名

③ 評価結果の総括、問題点等

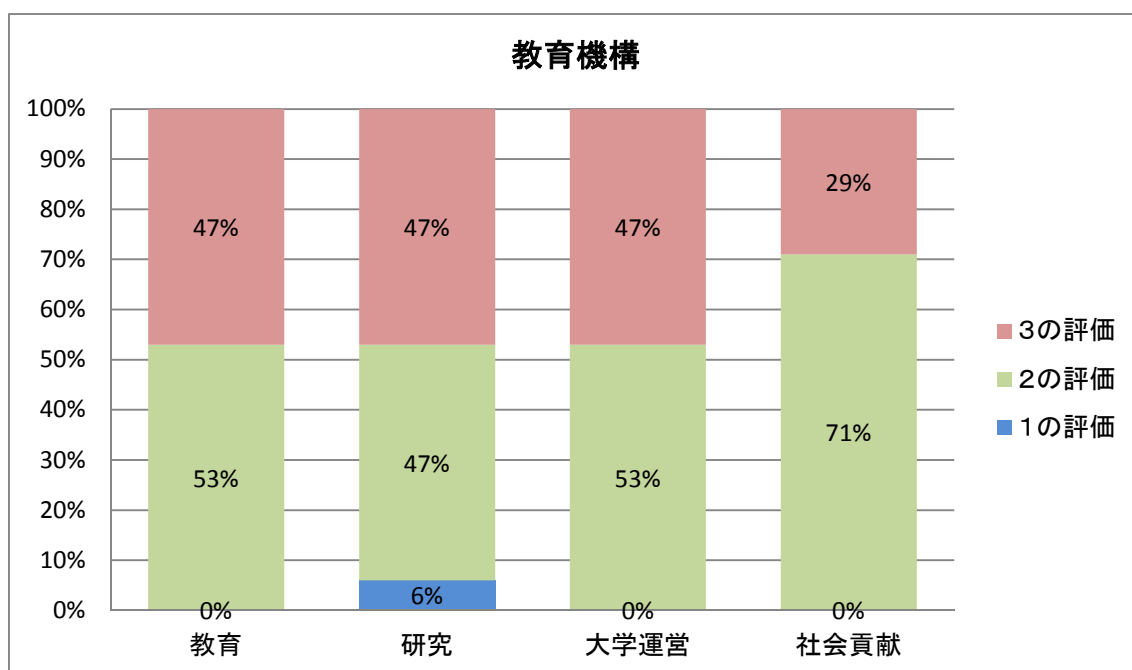
従来の方法を踏襲して、研究科長及び副研究科長の合議による評価を行った。評価
に当たっては、各コース長の意見も参考にした。

④ 特記事項

なし

(内部用)

(5) 教育機構 (評価対象人数：15名)



	教育		研究		大学運営		社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	7	47%	7	47%	7	47%	2	29%
2の評価	8	53%	7	47%	8	53%	5	71%
1の評価	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%

※英語教育開発センターでは、社会貢献活動領域の評価を教育活動領域で実施することをセンターの評価実施要領で定めているため、社会貢献項目については、英語教育開発センター所属教員を除いた人数をグラフ化した。

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

すべて評価3の教員が1名いる。また、1つだけ評価2、他は評価3の教員は3名である。

② 評価の低い教員数

評価1が1つだけある教員が1名いる。また、すべてが評価2の教員が2名いる。

③ 評価結果の総括、問題点等

1つ評価1がある教員は、保健センターの教員であり、研究・開発の項目なので問題ありとは捉えていない。それ以外の教員は、すべて評価2以上なので、期待される

(内部用)

水準、あるいはそれ以上の活動をしていて、評価結果上、問題ある教員はいないといえる。

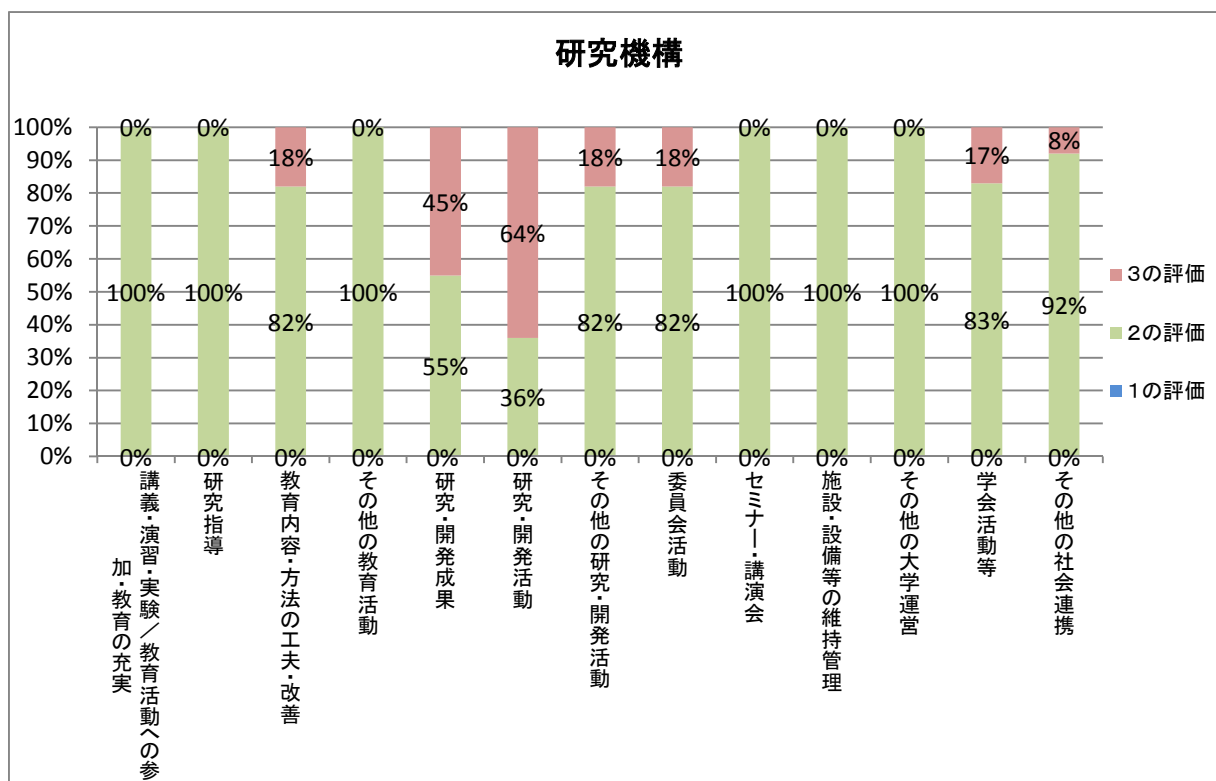
④ 特記事項

・基盤教育研究センターの教員は、平成 28 年度からのクォーター制実施に向けて、27 年度後期の授業で試行し、早めの宿題や試験問題の告示などの工夫について提言し、大学の教育に関する大きな貢献をした。

・社会調査研究センターの教員は、朝日新聞社との「朝日・埼玉大学県議選アンケート調査」や「朝日・埼玉大学知事選アンケート調査」を実施し、社会に対する大きな貢献をした。

(内部用)

(6) 研究機構 (評価対象人数: 12 名)



	教育							
	講義・演習・実験 ／教育活動への参加・教育の充実		研究指導		教育内容・方法の 工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	0	0%	0	0%	2	18%	0	0%
2の評価	12	100%	11	100%	9	82%	12	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

	研究					
	研究・開発成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	5	45%	7	64%	2	18%
2の評価	6	55%	4	36%	9	82%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%

(内部用)

	大学運営							
	委員会活動		セミナー・講演会		施設・設備等の維持管理		その他の大学運営	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	2	18%	0	0%	0	0%	0	0%
2の評価	9	82%	5	100%	5	100%	11	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

	社会貢献			
	学会活動等		その他の社会連携	
	人数	割合	人数	割合
3の評価	2	17%	1	8%
2の評価	10	83%	11	92%
1の評価	0	0%	0	0%

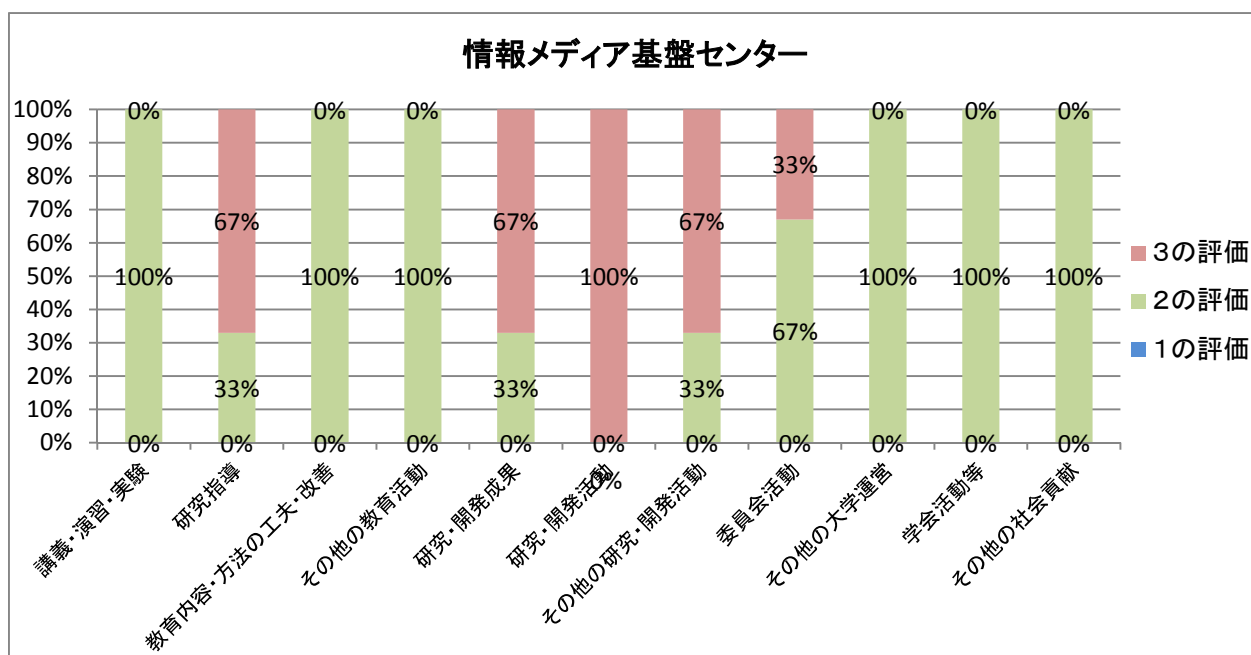
※研究機構では各センター等で評価項目が異なるため、各評価項目の合計人数が一定ではない。

○部局長コメント

- ① 評価の高い教員数
特になし
- ② 評価の低い教員数
特になし
- ③ 評価結果の総括、問題点等
特になし
- ④ 特記事項
特になし

(内部用)

(7) 情報メディア基盤センター (評価対象人数：3名)



	教育							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	0	0%	2	67%	0	0%	0	0%
2の評価	3	100%	1	33%	3	100%	3	100%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

	研究					
	研究・開発成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	2	67%	3	100%	2	67%
2の評価	1	33%	0	0%	1	33%
1の評価	0	0%	0	0%	0	0%

	大学運営				社会貢献			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合

(内部用)

3 の評価	1	33%	0	0%	0	0%	0	0%
2 の評価	2	67%	3	100%	3	100%	3	100%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

① 評価の高い教員数

なし

② 評価の低い教員数

なし

③ 評価結果の総括、問題点等

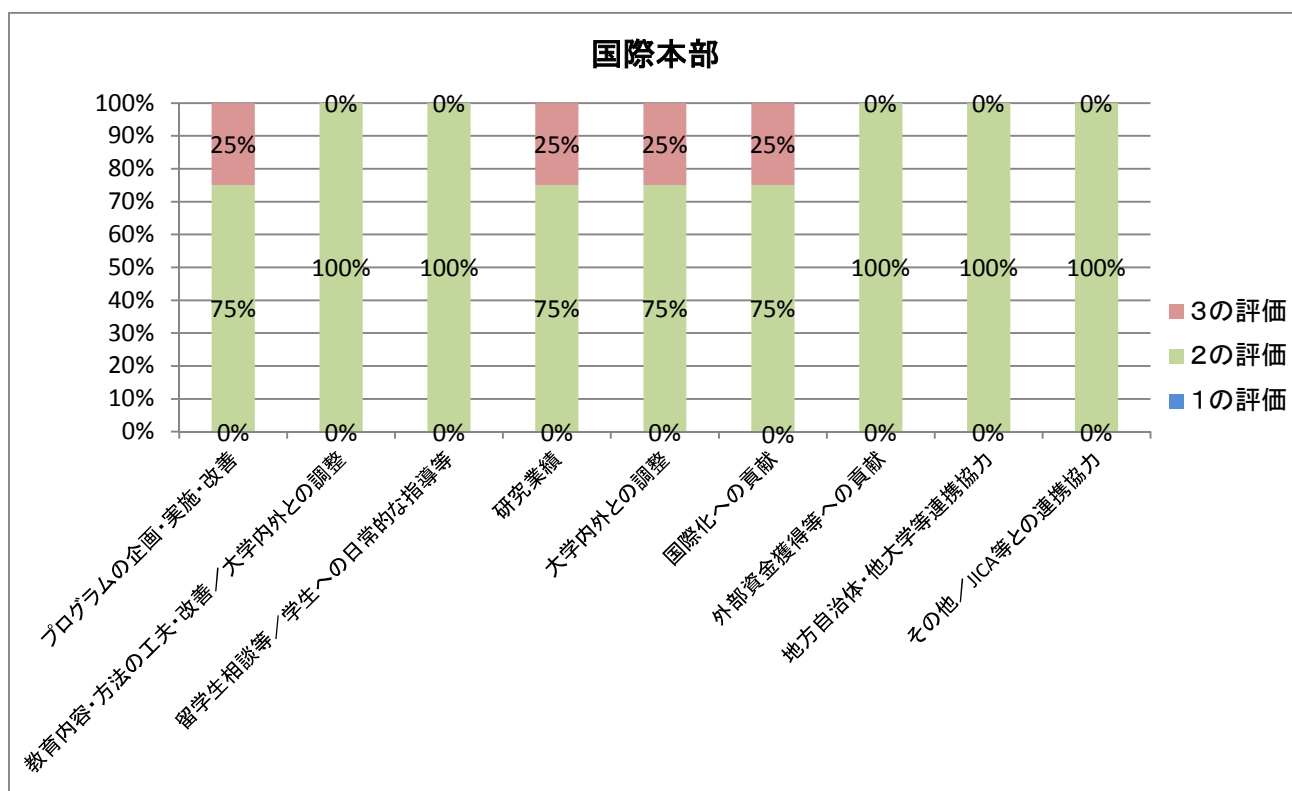
全ての教員が標準ないし標準以上の活動をしており、問題となる評価項目は皆無である。

④ 特記事項

なし

(内部用)

(8) 国際本部 (評価対象人数: 4 名)



	教育					
	プログラムの企画・実施・改善		教育内容・方法の工夫・改善／大学内外との調整		留学生相談等／学生への日常的な指導等	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	1	25%	0	0%	0	0%
2 の評価	3	75%	4	100%	4	100%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%

	研究			
	研究業績		大学内外との調整	
	人数	割合	人数	割合
3 の評価	1	25%	1	25%
2 の評価	3	75%	3	75%
1 の評価	0	0%	0	0%

(内部用)

	大学運営				社会貢献			
	国際化への貢献		外部資金獲得等への貢献		地方自治体・他大学等連携協力		その他／JICA等との連携協力	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%
2 の評価	3	75%	4	100%	4	100%	4	100%
1 の評価	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

○部局長コメント

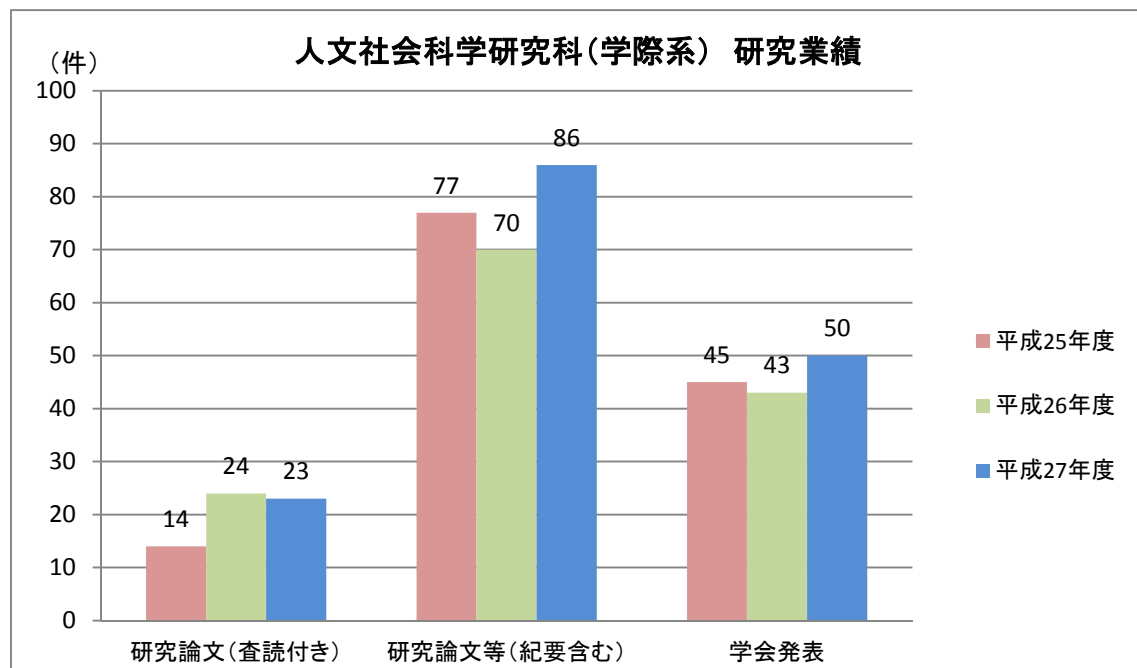
- ① 評価の高い教員数
2名
- ② 評価の低い教員数
該当なし
- ③ 評価結果の総括、問題点等
特になし
- ④ 特記事項
なし

(参考)

研究業績の推移（過去3年間：平成25年度実績～平成27年度実績）

評価対象教員の提出した過去3年分の教員活動報告書に記載された査読付き研究論文、研究論文等（紀要を含む）、学会発表の各データを部局ごとに集計した。

（1）人文社会科学研究科（学際系）

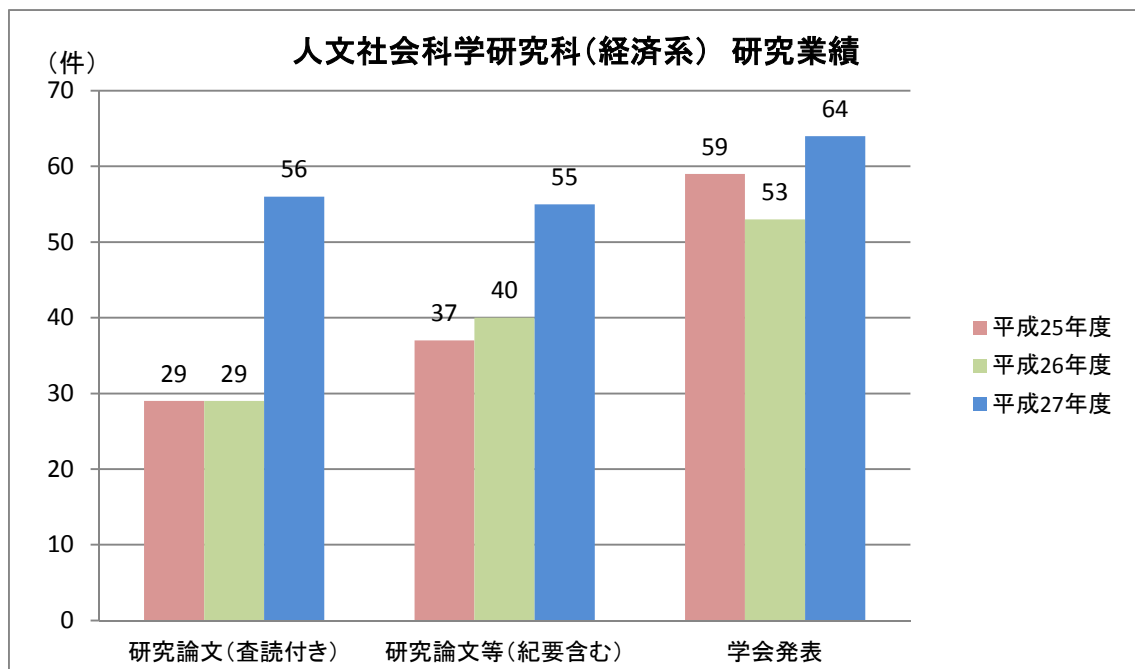


実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（紀要含む）		学会発表	
平成 25 年度	46	14	(0.30)	77	(1.67)	45	(0.98)
平成 26 年度	50	24	(0.48)	70	(1.40)	43	(0.86)
平成 27 年度	50	23	(0.46)	86	(1.72)	50	(1.00)

（ ）・・・一名当たりの業績

(参考)

(2) 人文社会科学研究科(経済系)

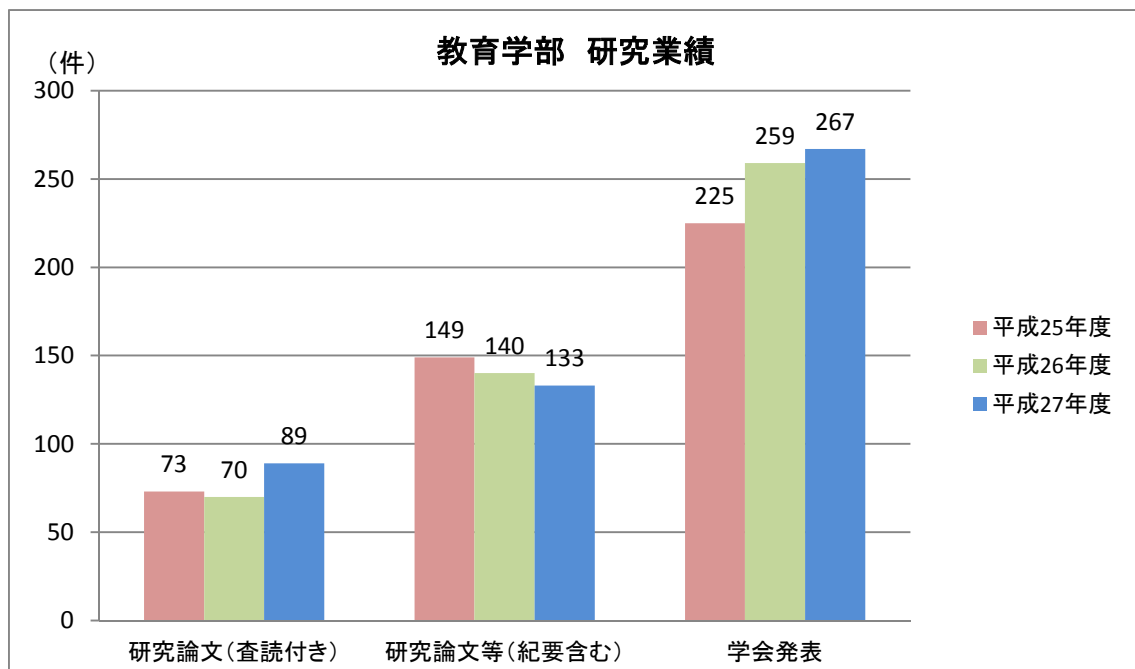


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要含む)		学会発表	
平成 25 年度	44	29	(0.66)	37	(0.84)	59	(1.34)
平成 26 年度	45	29	(0.64)	40	(0.89)	53	(1.18)
平成 27 年度	46	56	(1.22)	55	(1.20)	64	(1.39)

() …一名当たりの業績

(参考)

(3) 教育学部 (附属教育実践総合センター含む)

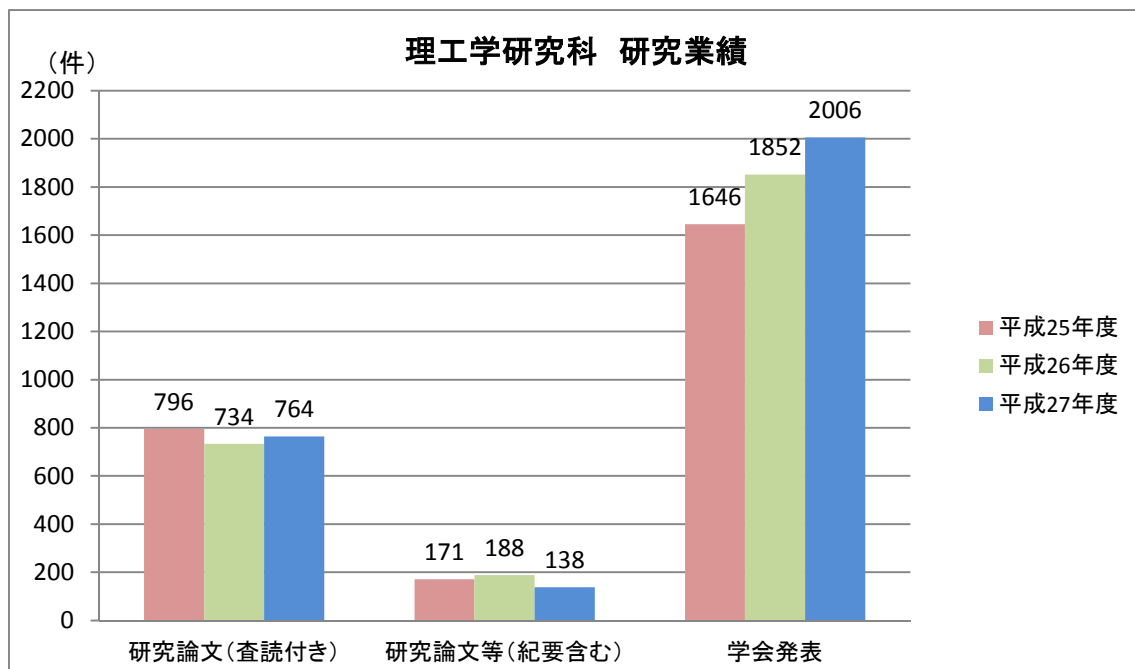


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要含む)		学会発表	
平成 25 年度	103	73	(0.71)	149	(1.45)	225	(2.18)
平成 26 年度	99	70	(0.71)	140	(1.41)	259	(2.62)
平成 27 年度	104	89	(0.86)	133	(1.28)	267	(2.57)

() …一名当たりの業績

(参考)

(4) 理工学研究科

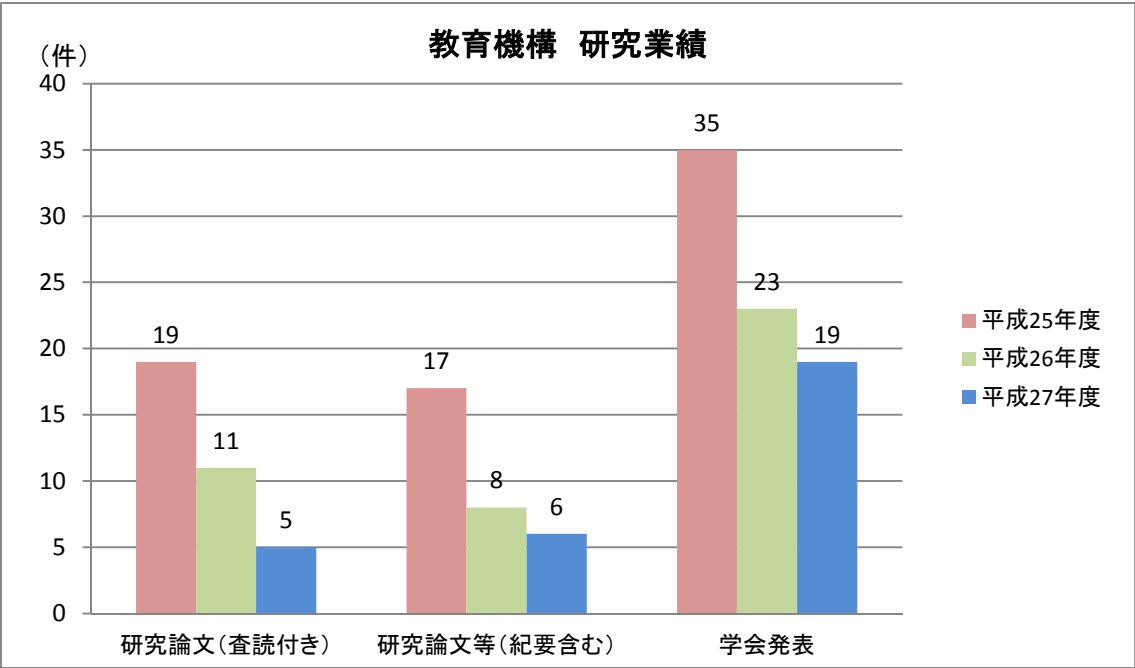


実績年度	評価対象者	研究論文 (査読付き)		研究論文等 (紀要含む)		学会発表	
平成 25 年度	191	796	(4.17)	171	(0.90)	1646	(8.62)
平成 26 年度	216	734	(3.40)	188	(0.87)	1852	(8.57)
平成 27 年度	223	764	(3.43)	138	(0.62)	2006	(9.00)

() ……一名当たりの業績

(参考)

(5) 教育機構

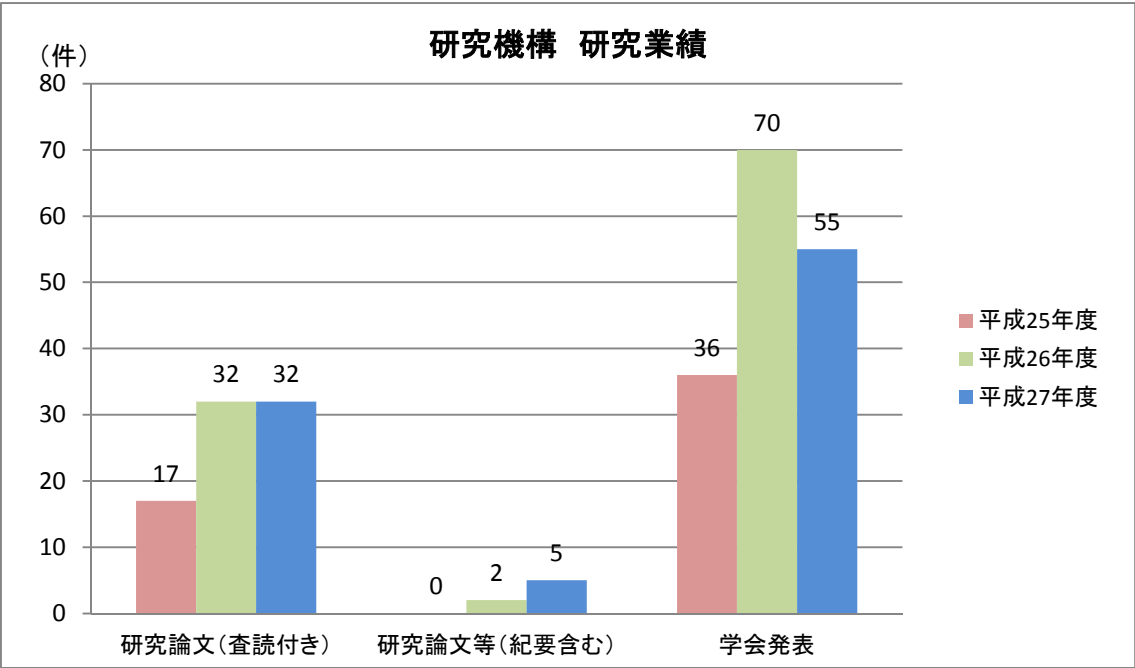


実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（紀要含む）		学会発表	
平成 25 年度	18	19	(1.06)	17	(0.94)	35	(1.94)
平成 26 年度	15	11	(0.73)	8	(0.53)	23	(1.53)
平成 27 年度	15	5	(0.33)	6	(0.40)	19	(1.27)

() …一名当たりの業績

(参考)

(6) 研究機構

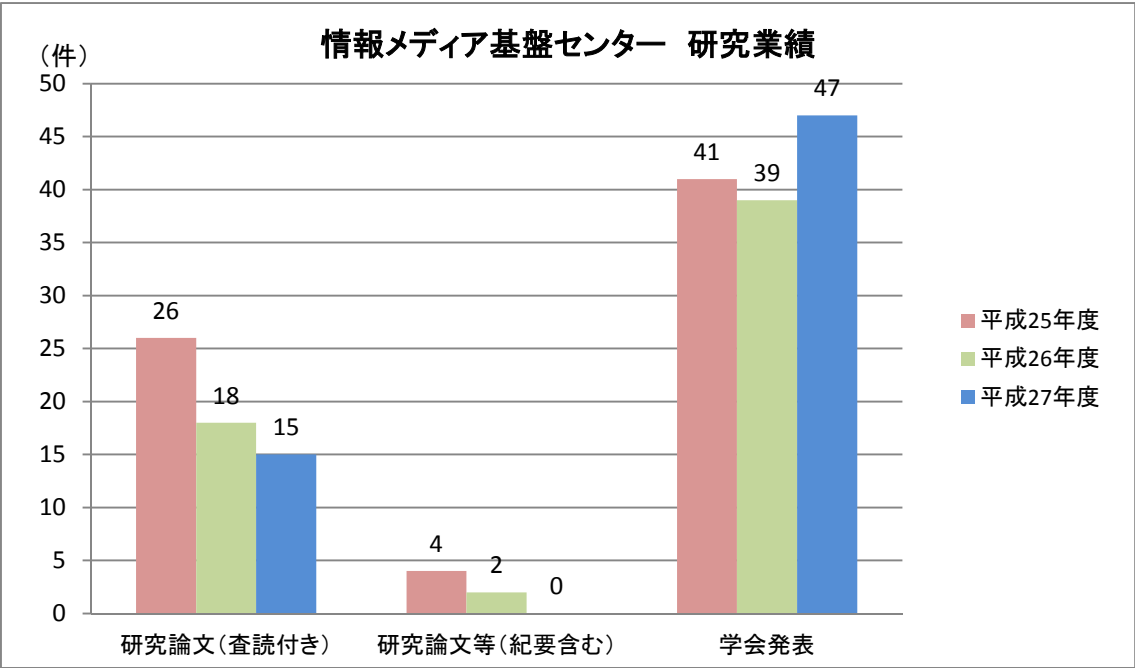


実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（紀要含む）		学会発表	
平成 25 年度	8	17	(2.13)	0	(0.00)	36	(4.50)
平成 26 年度	12	32	(2.67)	2	(0.17)	70	(5.83)
平成 27 年度	12	32	(2.67)	5	(0.42)	55	(4.58)

() …一名当たりの業績

(参考)

(7) 情報メディア基盤センター

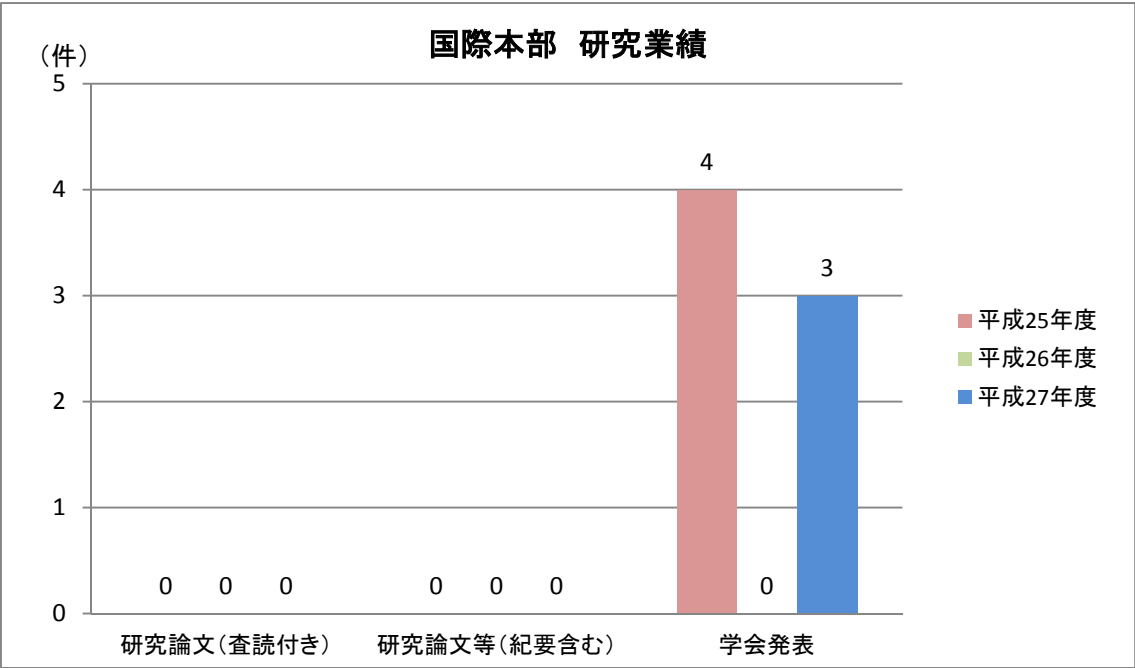


実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（紀要含む）		学会発表	
平成 25 年度	3	26	(8.67)	4	(1.33)	41	(13.67)
平成 26 年度	3	18	(6.00)	2	(0.67)	39	(13.00)
平成 27 年度	3	15	(5.00)	0	(0.00)	47	(15.67)

() …一名当たりの業績

(参考)

(8) 国際本部



実績年度	評価対象者	研究論文（査読付き）		研究論文等（紀要含む）		学会発表	
平成 25 年度	5	0	(0.00)	0	(0.00)	4	(0.80)
平成 26 年度	4	0	(0.00)	0	(0.00)	0	(0.00)
平成 27 年度	4	0	(0.00)	0	(0.00)	3	(0.75)

() …一名当たりの業績